



インストール・ガイド

Software Developer's Kit および Open Server™

15.7

[UNIX 版]

ドキュメント ID: DC32432-01-1570-02

改訂 : 2012 年 4 月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、the Sybase trademarks page (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連の商標は、米国およびその他の国における Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

はじめに.....	v
第 1 章	作業を始める前に 1
SDK と Open Server のコンポーネント	1
SDK のコンポーネント	1
Open Server のコンポーネント	6
SDK と Open Server のシステム稼働条件	8
ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件	8
必要なユーティリティ	10
必要なディスク領域	11
インストール前の作業手順	12
Linux on POWER (32 ビット版および 64 ビット版) のインストール前の作業手順	13
Linux でのインストール前の作業手順	14
第 2 章	SDK と Open Server のインストール 15
SDK または Open Server インストーラの使用	15
リモート・マシンへのインストール	16
SDK または Open Server のインストール	17
SDK または Open Server 15.7 のバージョン 15.5 ディレクトリへのインストール	17
CD のマウント	17
GUI モードでのインストール	18
コンソール・モードでのインストール	21
応答ファイルを使用したインストール	22
SDK または Open Server のアンインストール	24
アンインストール手順	25
SDK または Open Server のダウングレード	26
コマンド・ライン・オプション	27

第 3 章	インストール後の作業	29
	環境変数の設定	29
	サンプル・スクリプトの実行	30
	コンポーネントの設定	32
	interfaces ファイル・エントリの修正	32
	jConnect for JDBC のインストール後の作業	33
	JDBC_HOME の設定	33
	CLASSPATH の設定	33
	ストアド・プロシージャのインストール	34
	インストール内容の確認	36
	jConnect インストール環境のテスト	37
	jConnect のアップグレード	39
索引		41

はじめに

対象読者

このマニュアルは、システム管理者、または Software Developer's Kit (SDK) または Open Server™ のインストール担当者を対象としています。

このマニュアルの内容

このマニュアルには、以下の章があります。

- 「第 1 章 作業を始める前に」では、インストール前の情報と作業について説明します。
- 「第 2 章 SDK と Open Server のインストール」では、SDK および Open Server をインストールする方法について説明します。
- 「第 3 章 インストール後の作業」では、SDK と Open Server のコンポーネント・ソフトウェアをインストールした後に実行する必要のある作業について説明します。

関連マニュアル

詳細については、これらのマニュアルを参照できます。

- 『Open Server および SDK 新機能』（各 Windows、Linux、UNIX 版）では、Open Server と Software Developer's Kit の新機能について説明しています。このマニュアルは、新機能の提供に伴って改訂されます。
- 使用しているプラットフォームの Open Server の『リリース・ノート』には、Open Server に関する重要な最新情報が記載されています。
- 使用しているプラットフォームの『Software Developer's Kit リリース・ノート』には、Open Client™ および SDK に関する重要な最新情報が記載されています。
- 『jConnect™ for JDBC™ リリース・ノート』には、jConnect に関する重要な最新情報が記載されています。
- 使用しているプラットフォームの『Open Client™/Server 設定ガイド』には、システムを設定して Open Client/Server 製品を実行する方法について説明しています。
- 『Open Client Client-Library/C プログラマーズ・ガイド』では、Client-Library アプリケーションの設計方法および実装方法について説明しています。

-
- 『Open Client Client-Library/C リファレンス・マニュアル』では、Open Client Client-Library™ のリファレンス情報について説明しています。
 - 『Open Server Server-Library/C リファレンス・マニュアル』では、Open Server Server-Library のリファレンス情報について説明しています。
 - 『Open Client および Open Server Common Libraries リファレンス・マニュアル』では、CS-Library のリファレンス情報について説明しています。CS-Library は、Client-Library と Server-Library の両方のアプリケーションで役に立つユーティリティ・ルーチンの集まりです。
 - 『Open Server DB-Library/C リファレンス・マニュアル』では、C バージョンの Open Client DB-Library™ のリファレンス情報について説明しています。
 - 使用しているプラットフォームの『Open Client/Server プログラマーズ・ガイド補足』では、Open Client/Server を使用するプログラマのために、プラットフォーム固有の情報について説明しています。このマニュアルには、次の情報が含まれています。
 - アプリケーションのコンパイルおよびリンク
 - Open Client/Server に含まれているサンプル・プログラム
 - プラットフォーム固有の動作をするルーチン
 - 『Sybase® SDK DB-Library Kerberos 認証オプションのインストールおよびリリース・ノート』では、DB-Library で使用する MIT Kerberos セキュリティメカニズムをインストールして有効にする方法について説明しています。DB-Library でサポートされる Kerberos セキュリティ・メカニズムの機能は、ネットワーク認証サービスと相互認証サービスのみです。
 - 『Open Client Client-Library 移行ガイド』には、Open Client™ DB-Library™ アプリケーションを Open Client Client-Library に移行する方法に関する情報が記載されています。
 - 『Open Client/Server 開発者用国際化ガイド』では、国際化されたアプリケーションとローカライズされたアプリケーションを作成する方法について説明しています。
 - 『Open Client Embedded SQL™/C プログラマーズ・ガイド』では、C アプリケーションで Embedded SQL および Embedded SQL プリコンパイラを使用する方法について説明しています。

- 『Open Client Embedded SQL™/COBOL プログラマーズ・ガイド』では、COBOL アプリケーションで Embedded SQL および Embedded SQL プリコンパイラを使用する方法について説明しています。
- 『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』では、jConnect for JDBC 製品について説明し、リレーショナル・データベース管理システムに保管されているデータにアクセスする方法について説明しています。
- Sybase® 製 Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバの『ユーザーズ・ガイド』(Microsoft Windows および UNIX 版)では、Microsoft Windows および UNIX プラットフォームの Adaptive Server から、Open Database Connectivity (ODBC) ドライバを使用してデータにアクセスする方法について説明します。
- 『Perl 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド』では、Perl 開発者が Perl スクリプトを使用して Adaptive Server のデータベースに接続し、情報をクエリまたは変更する方法について説明しています。
- 『PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』では、PHP 開発者が Adaptive Server データベースに対してクエリを実行する方法について説明しています。
- 『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』では、Adaptive Server データベースに対してクエリを実行するときに使用できる Sybase 固有の Python インタフェースについて説明しています。

その他の情報

Sybase Getting Started CD および Sybase Product Documentation Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、リリース・ノートとインストール・ガイドが PDF 形式で含まれています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- Sybase Product Documentation Web サイトには、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。また、製品ドキュメントのほか、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Newsgroups、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

Sybase Product Documentation Web サイトは、Product Documentation (<http://www.sybase.com/support/manuals/>) にあります。

Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

❖ 製品認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Technical Documents (<http://www.sybase.com/support/techdocs/>) を指定します。
- 2 [Partner Certification Report] をクリックします。
- 3 [Partner Certification Report] フィルタで製品、プラットフォーム、時間枠を指定して [Go] をクリックします。
- 4 [Partner Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

❖ コンポーネント認定の最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで Availability and Certification Reports (<http://certification.sybase.com/>) を指定します。
- 2 [Search By Base Product] で製品ファミリとベース製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームとベース製品を選択します。
- 3 [Search] をクリックして、入手状況と認定レポートを表示します。

❖ Sybase Web サイト (サポート・ページを含む) の自分専用のビューを作成する

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

- 1 Web ブラウザで Technical Documents (<http://www.sybase.com/support/techdocs/>) を指定します。
- 2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

❖ EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする

- 1 Web ブラウザで the Sybase Support Page (<http://www.sybase.com/support>) を指定します。
- 2 [EBFs/Maintenance] を選択します。MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 製品を選択します。

- 4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースの一覧が表示されます。

鍵のアイコンは、「Technical Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録でも、Sybase 担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

- 5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。

表記規則

表 1：構文の表記規則

凡例	定義
コマンド	コマンド名、コマンドのオプション名、ユーティリティ名、ユーティリティのフラグ、キーワードは sans serif で示す。
変数	変数 (ユーザが入力する値を表す語) は <i>斜体</i> で表記する。
{ }	中カッコは、その中から必ず 1 つ以上のオプションを選択しなければならないことを意味する。コマンドには中カッコは入力しない。
[]	角カッコは、オプションを選択しても省略してもよいことを意味する。コマンドには中カッコは入力しない。
()	このカッコはコマンドの一部として入力する。
	中カッコまたは角カッコの中の縦線で区切られたオプションのうち 1 つだけを選択できることを意味する。
,	中カッコまたは角カッコの中のカンマで区切られたオプションをいくつでも選択できることを意味する。複数のオプションを選択する場合には、オプションをカンマで区切る。

アクセシビリティ機能

このマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。この HTML 版マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示などの方法により、その内容を理解できるよう配慮されています。

Open Client および Open Server のマニュアルは、連邦リハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意 アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音しません。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれません。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、Sybase Accessibility (<http://www.sybase.com/accessibility>) を参照してください。Sybase Accessibility サイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

不明な点があるときは

Sybase ソフトウェアがインストールされているサイトには、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタとの連絡担当の方 (コンタクト・パーソン) を決めてあります。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase のサポート・センタまでご連絡ください。

作業を始める前に

この章では、システムの稼働条件と、Software Developer's Kit (SDK) および Open Server をインストールする前に実行する作業について説明します。

トピック	ページ
SDK と Open Server のコンポーネント	1
SDK と Open Server のシステム稼働条件	8
インストール前の作業手順	12

SDK と Open Server のコンポーネント

この項では、SDK および Open Server 製品に含まれるコンポーネントの概要について説明します。

SDK のコンポーネント

SDK は、クライアント・アプリケーションの開発に使用できるライブラリとユーティリティのセットであり、次のコンポーネントを含みます。

- **Open Client** – Adaptive Server データにアクセスする C 言語アプリケーションの開発と展開に使用される API のセット。インストール・メディアの内容は次のとおり。
 - **Client-Library** と **Open Server** のアプリケーションをディレクトリ・サービスおよびセキュリティ・サービスと統合するためのドライバ
 - **Client-Library** 用のサンプル・プログラムと **DB-Library™** 用のサンプル・プログラム

- Open Client Embedded SQL™/C – Transact-SQL® 文を C 言語アプリケーションに埋め込めるようにするプリコンパイラ。インストール・メディアには、Embedded SQL/C 用のサンプル・プログラムも含まれる。
- Open Client Embedded SQL/COBOL – Transact-SQL 文を COBOL 言語アプリケーションに埋め込めるようにするプリコンパイラ。インストール・メディアには、Embedded SQL/COBOL 用のサンプル・プログラムも含まれる。

注意 Embedded SQL/COBOL は、Linux on POWER (32 ビット版) を除き、すべてのプラットフォームで利用できます。

- 言語モジュール – アプリケーションのローカライズに役立つシステム・メッセージや日時フォーマットを表示する。デフォルトでインストールされる文字セットは次のとおり。

ASCII、未指定の 8 ビット・データで使用される (ascii_8)	BIG 5、中国語 (繁体字) および香港補足文字セット (big5hk)
BIG 5、中国語 (繁体字) (big5)	Microsoft Windows コード・ページ 1250、1251、1252、1253、1254、1255、1256、1257、1258、866 (cp1250、cp1251、cp1252、cp1253、cp1254、cp1255、cp1256、cp1257、cp1258、cp866)
IBM コード・ページ 852、855、857、860、864、869、874、950 (cp852、cp855、cp857、cp860、cp864、cp869、cp874、cp950)	コード・ページ 850 のバリエーション (cp858)、JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM コード・ページ 932 (cp932)
コード・ページ 437、850 (cp437、cp850)	
CP936、中国語 (簡体字) (cp936)	PC (MS) 韓国語 (cp949)
JIS-X0208 用 DEC 漢字コード (deckanji)	NS-11643 用拡張 UNIX コード (euccns)
GB2312-80 用拡張 UNIX コード (eucgb)	JIS-X0201 および JIS-X0208 用拡張 UNIX コード (eucjis)
KSC-5601 用拡張 UNIX コード (eucksc)	P.R.C 標準 GB 18030-2000 (gb18030)
HP ギリシャ語 (greek8)	ISO_8859-15 Latin9、西欧言語 (iso15)
ISO_8859-2 Latin2、東欧言語 (iso88592)	ISO_8859-5 キリル語 (iso88595)

ISO_8859-6 アラビア語、ASMO-708 (iso88596)	ISO_8859-7 ギリシャ語、ELOT_928 (iso88597)
ISO_8859-8 ヘブライ語 (iso88598)	ISO_8859-9 Latin5、トルコ語 (iso88599)
ISO 8859-1 (iso_1)	KOI-8 キリル語 8 ビット (koi8)
カザフスタン、キリル語 (kz1048)	Macintosh 西欧ロケール (mac)
Macintosh キリル語 (mac_cyr)	Macintosh、東欧言語 (mac_ee)
Macintosh、西欧ロケール用ヨーロッパ言語のサポート付き (mac_euro)	Macintosh、ギリシャ語 (macgrk2)
Macintosh、トルコ語 (macturk)	Hewlett-Packard Roman 8 と Roman 9 (roman8、roman9)
JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM/Microsoft コード (sjis)	タイ工業規格 (tis620)
HP トルコ語、8 ビット (turkish8)	UTF-8 形式でコード化された Unicode 3.1 (utf8)

追加の言語モジュールは、次のとおりです。

- 中国語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ポルトガル語
- スペイン語
- タイ語

注意 SDK および Open Server は、Adaptive Server と同じ文字セットをサポートしています。

- Sybase 製 Adaptive Server[®] Enterprise ODBC ドライバ、バージョン 15.7。

注意 Adaptive Server ODBC ドライバを使用できるのは、HP-UX Itanium 64 ビット版、Solaris SPARC 64 ビット版、Solaris x86-64 64 ビット版、IBM AIX 64 ビット版、Linux x86 32 ビット版、Linux x86-64 64 ビット版、および Linux on POWER 64 ビット版プラットフォームのみです。

- jConnect for JDBC — Java JDBC 標準の JAVA 実装であり、Java 開発者に多層環境と異種環境でのネイティブ・データベース・アクセスを提供する。jConnect のハードウェアとソフトウェアの要件、およびインストール手順については、『*jConnect for JDBC* インストール・ガイド』を参照。
- Extended Architecture (XA) Interface Library for Adaptive Server Distributed Data Manager。XA のサンプル・プログラムも含まれる。

注意 XA は、Linux x86 32 ビット版、Linux on POWER 32 ビット版と 64 ビット版、および HP-UX Itanium 32 ビット版を除くすべてのプラットフォームで利用できます。

- Python スクリプト言語用の Adaptive Server Enterprise 拡張モジュールを使用すると、Python 開発者は Adaptive Server に対して T-SQL クエリを実行できます。詳細については、『*Python* 用 *Adaptive Server Enterprise* 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。インストール・メディアにはサンプルが含まれています。
- PHP スクリプト言語用の Adaptive Server Enterprise 拡張モジュールを使用すると、PHP 開発者は Adaptive Server に対して T-SQL クエリを実行できます。詳細については、『*PHP* 用 *Adaptive Server Enterprise* 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。インストール・メディアにはサンプルが含まれています。
- Perl 用の Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバを使用すると、Perl 開発者は Adaptive Server に対して T-SQL クエリを実行できます。詳細については、『*PERL* 用 *Adaptive Server Enterprise* データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。インストール・メディアにはサンプルが含まれています。

表 1-1 に、SDK に含まれるライブラリとユーティリティを示します。

注意 jConnect 7.07 のライブラリとユーティリティについては、『jConnect for JDBC インストール・ガイド』（バージョン 7.07 用）を参照してください。

表 1-1: UNIX プラットフォーム用の SDK ライブラリとユーティリティ

SDK	Open Client	Embedded SQL/C	Embedded SQL/COBOL	Perl	PHP	Python
ライブラリ						
Client-Library	x	x	x	x	x	x
CS-Library	x	x	x	x	x	x
DB-Library	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
Bulk-Library	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
XA-Library	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
Net-Library	x	x	x	x	x	x
Common-Library	x	x	x	x	x	x
LDAP	x	x	x	x	x	x
SSL	x	x	x	x	x	x
Kerberos	x	x	x	x	x	x
DBAPI	該当なし	該当なし	該当なし	x	x	x
intl.lib	x	x	x	x	x	x
ユーティリティ						
bcp、defncopy、 dscp、dsedit、isql、 certauth、certpk12、 certreq、extractjava、 installjava、pwdcrypt	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
cpre	該当なし	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
cpre64 (非リエントラ ント・バージョン)、 cpre_r64 (リエントラ ント・バージョン)	該当な し	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
cobpre	該当なし	該当なし	x	該当なし	該当なし	該当なし
cobpre64 (非リエント ラント・バージョン)、 cobpre_r64 (リエント ラント・バージョン)	該当な し	該当なし	x	該当なし	該当なし	該当なし
記号の説明：x = 利用可能、該当なし = このコンポーネントでは利用できません。						

Open Server のコンポーネント

Open Server は、Open Client または jConnect ルーチンを通じて送信されたクライアント要求に応答するカスタム・サーバを作成するために使用できる API とサポート・ツールのセットです。Open Server には、次のコンポーネントが含まれています。

- Open Server – API とサポート・ツールのセット。インストール・メディアの内容は次のとおり。
 - Client-Library と Open Server のアプリケーションをディレクトリ・サービスおよびセキュリティ・サービスと統合するためのドライバ
 - Server-Library と Client-Library 用のサンプル・プログラム
- Open Client – Adaptive Server データにアクセスする C 言語アプリケーションの開発と展開に使用される API のセット。インストール・メディアの内容は次のとおり。
 - Client-Library と Open Server のアプリケーションをディレクトリ・サービスおよびセキュリティ・サービスと統合するためのドライバ
 - Client-Library 用と、DB-Library から Client-Library への移行用のサンプル・プログラム
- 言語モジュール – アプリケーションのローカライズに役立つシステム・メッセージや日時フォーマットを表示する。次の文字セットのいくつかはデフォルトでインストールされる。

ASCII、未指定の 8 ビット・データで使用される (ascii_8)	BIG 5、中国語 (繁体字) および香港補足文字セット (big5hk)
BIG 5、中国語 (繁体字) (big5)	Microsoft Windows コード・ページ 1250、1251、1252、1253、1254、1255、1256、1257、1258、866 (cp1250、cp1251、cp1252、cp1253、cp1254、cp1255、cp1256、cp1257、cp1258、cp866)
IBM コード・ページ 437、850、852、855、857、860、864、869、874、950 (cp437、cp850、cp852、cp855、cp857、cp860、cp864、cp869、cp874、cp950)	コード・ページ 850 のバリエーション (cp858)、JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM コード・ページ 932 (cp932)
コード・ページ 437、850 (cp437、cp850)	
CP936、中国語 (簡体字) (cp936)	PC (MS) 韓国語 (cp949)

JIS-X0208 用 DEC 漢字コード (deckanji)	NS-11643 用拡張 UNIX コード (euccns)
GB2312-80 用拡張 UNIX コード (eucgb)	JIS-X0201 および JIS-X0208 用拡張 UNIX コード (eucjis)
KSC-5601 用拡張 UNIX コード (eucksc)	P.R.C 標準 GB 18030-2000 (gb18030)
HP ギリシャ語 (greek8)	ISO_8859-15 Latin9、西欧言語 (iso15)
ISO_8859-2 Latin2、東欧言語 (iso88592)	ISO_8859-5 キリル語 (iso88595)
ISO_8859-6 アラビア語、ASMO-708 (iso88596)	ISO_8859-7 ギリシャ語、ELOT_928 (iso88597)
ISO_8859-8 ヘブライ語 (iso88598)	ISO_8859-9 Latin5、トルコ語 (iso88599)
ISO 8859-1 (iso_1)	KOI-8 キリル語 8 ビット (koi8)
カザフスタン、キリル語 (kz1048)	Macintosh 西欧ロケール (mac)
Macintosh キリル語 (mac_cyr)	Macintosh、東欧言語 (mac_ee)
Macintosh、西欧ロケール用ヨーロッパ言語のサポート付き (mac_euro)	Macintosh、ギリシャ語 (macgrk2)
Macintosh、トルコ語 (macturk)	Hewlett-Packard Roman 8 と Roman 9 (roman8、roman9)
JIS-X0201 および JIS-X0208 用 IBM/Microsoft コード (sjis)	タイ工業規格 (tis620)
HP トルコ語、8 ビット (turkish8)	UTF-8 形式でコード化された Unicode 3.1 (utf8)

追加の言語モジュールは、次のとおりです。

- 中国語
- フランス語
- ドイツ語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ポルトガル語
- スペイン語
- タイ語

表 1-2 に、Open Server でインストールされるライブラリとユーティリティを示します。

表 1-2: Open Server のライブラリとユーティリティ

ライブラリ	<ul style="list-style-type: none">• Server-Library• Client-Library• CS-Library• Net-Library• Bulk-Library• Common-Library• LDAP• SSL• Kerberos
ユーティリティ	<ul style="list-style-type: none">• bcp• defncopy• dsedit• dscp• isql• certauth• certpk12• certreq• pwdcrypt

SDK と Open Server のシステム稼働条件

この項では以下の内容について説明します。

- [ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件](#)
- [必要なディスク領域](#)

ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件

表 1-3 に、Open Server および SDK 製品が構築およびテストされているプラットフォーム、コンパイラ、サードパーティ製品を示します。

Open Server と SDK がサポートしているプロトコルは TCP/IP です。

表 1-3: Open Server と SDK のプラットフォーム互換性の一覧

プラットフォーム	オペレーティング・システム・レベル	C および C++ コンパイラ	COBOL コンパイラ	Kerberos バージョン	LDAP (Light-weight Directory Access)	Secure Sockets Layer (SSL)	Perl のバージョン	PHP のバージョン	Python のバージョン
HP-UX Itanium 32 ビット版	HP 11.31	HP ANSI C A.06.17	MF SE 5.1	MIT 1.4.1	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	5.14 (DBI 1.616)	該当なし	該当なし
HP-UX Itanium 64 ビット版	HP 11.31	HP ANSI C A.06.17	MF SE 5.1	MIT 1.4.1	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)
IBM AIX 32 ビット版	AIX 6.1	XL C 10.1	MF SE 5.1	Cybersafe Trustbroker 2.1、MIT 1.4.1	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	5.14 (DBI 1.616)	該当なし	該当なし
IBM AIX 64 ビット版	AIX 6.1	XL C 10.1	MF SE 5.1	MIT 1.4.3	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)
Linux x86 32 ビット版	Red Hat Enterprise Linux 5.3	gcc 4.1.2 20060404 kernel 2.6.9-55.ELsmp	MF SE 5.1	MIT 1.4.2	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	該当なし	該当なし
Linux x86-64 64 ビット版	Red Hat Enterprise Linux 5.3 (Nahant Update 4)	gcc 4.1.2 20060404 kernel 2.6.9-55.ELsmp	MF SE 5.1	MIT 1.4.3	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	5.14 (DBI 1.616)	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)
Linux on POWER 32 ビット版	Red Hat Enterprise Linux 5.3	XL C 10.1	サポート予定なし	MIT 1.4.1	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	5.14 (DBI 1.616)	該当なし	該当なし
Linux on POWER 64 ビット版	Red Hat Enterprise Linux 5.3	XL C 10.1	MF SE 5.1	MIT 1.4.1	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)
Solaris SPARC 32 ビット版	Solaris 10	Solaris Studio 12.1	MF SE 5.1	Cybersafe Trustbroker 2.1、MIT 1.4.2	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	5.14 (DBI 1.616)	該当なし	該当なし

プラットフォーム	オペレーティング・システム・レベル	C および C++ コンパイラ	COBOL コンパイラ	Kerberos パージョン	LDAP (Light-weight Directory Access)	Secure Sockets Layer (SSL)	Perl のバージョン	PHP のバージョン	Python のバージョン
Solaris SPARC 64 ビット版	Solaris 10、パッチレベル 144488-17 以降、パッチレベル 119963-24 以降 (SUNWlibC 向け)	Solaris Studio 12.1	MF SE 5.1	Cybersafe Trustbroker 2.1、MIT 1.4.2	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)
Solaris x86 32 ビット版	Solaris 10	Solaris Studio 12.1	MF SE 5.1	MIT 1.4.2	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	5.14 (DBI 1.616)	該当なし	該当なし
Solaris x86-64 64 ビット版	Solaris 10	Solaris Studio 12.1	MF SE 5.1	MIT 1.4.2	OpenLDAP 2.4.16 (OpenSSL 0.9.8i を含む)	Certicom SSL Plus 5.2.2 (SBGSE 2.0) CSI-Crypto 2.7M1	該当なし	5.3.6	2.6、2.7、および 3.1 (DBAPI 2.0)

記号の説明：該当なし = そのプラットフォーム版でスクリプトが使用できない、または SDK と連動しない。

注意 他のインストール作業を始める前にインストールする必要のある必須パッチについては、UNIX プラットフォームの対応するリリース・ノートを確認してください。該当するプラットフォームで使用できる最新パッチについては、該当するプラットフォームの Sybase サポート・センタに問い合わせてください。動作確認されている最新のプラットフォームについては、「[Web 上の Sybase 製品の動作確認情報](#)」(viii ページ) を参照してください。

必要なユーティリティ

Open Server インストーラには、**gzip** が必要です。\$PATH 環境変数に gzip へのパスが設定されていることを確認してください。

必要なディスク領域

各プラットフォームで必要なインストール・ディスク領域は、255MB ～ 665MB であり、次の条件によって異なります。

- インストールされる製品 – SDK または Open Server
- アーキテクチャ – 32 ビットまたは 64 ビット
- プラットフォーム – IBM AIX 32 ビット版と 64 ビット版、HP-UX Itanium 32 ビット版と 64 ビット版、Linux x86 32 ビット版、Linux x86-64 64 ビット版、Linux on POWER 32 ビット版と 64 ビット版、Solaris x86 32 ビット版、Solaris x86-64 64 ビット版、および Solaris SPARC 32 ビット版と 64 ビット版
- インストールの種類 – 通常、フル、またはカスタム

インストールに必要なディスク領域

インストールに十分なディスク領域があることを確認できるように、[インストール前の概要] ウィンドウには、インストールする各コンポーネントと、選択されたすべてのコンポーネントに必要な総ディスク領域が表示されます。十分なディスク領域がない状態で続行すると、対象ディレクトリにおける必要な領域と使用可能領域に関する情報を示す警告が表示されます。警告には、インストールを続行するために解放する必要がある最小領域も表示されます。または、インストールをキャンセルすることもできます。

jConnect の稼働条件

jConnect は別製品としてインストールできます。jConnect 7.07 には、約 15MB のメモリが必要です。

インストール前の作業手順

次の作業は、SDK または Open Server 製品のインストールを準備する方法を示しています。

注意 このマニュアルの手順は、Adaptive Server Enterprise Suite に含まれる SDK のインストールには適用されません。そのような手順については、Adaptive Server Enterprise の『インストール・ガイド』を参照してください。

❖ インストール前の準備

- 1 インストールする製品の最新情報については、『SDK リリース・ノート』または『Open Server リリース・ノート UNIX 版』を参照してください。

最新のリリース・ノートは、次の Web サイトから入手できます。
Sybase Product Documentation Web site
(<http://www.sybase.com/support/techdocs>)

- 2 すべてのインストール作業を行うための “sybase” アカウントをシステム上に作成します。そのためには「管理者」権限が必要であるため、通常、システム管理者が設定します。
- 3 "sybase" ユーザとして、使用しているマシンにログインします。

すべてのファイルおよびディレクトリに対して、一貫した所有権と権限を保持するようにしてください。読み込み／書き込み／実行のパーミッションを持つ Sybase システム管理者である 1 人のユーザが、アンロード、インストール、アップグレード、設定のすべての作業を行ってください。

警告！ インストールを開始する前にパーミッションが設定されていることを確認してください。インストーラは、パーミッションをチェックしません。パーミッションがない場合、インストーラは例外と、パーミッションが与えられていないというエラーをログ・ファイルに記録します。

“sybase” ユーザには、ディスク・パーティションの最上位（ルート）またはオペレーティング・システム・ディレクトリから、特定の物理デバイスまたはオペレーティング・システム・ファイルまでの読み込み／書き込み／実行の権限が必要です。

- 4 Sybase インストール・ディレクトリのディレクトリ・ロケーションを特定または作成します。このロケーションに SDK および Open Server 製品をアンロードします。
- 5 アンロード先のディレクトリ・ロケーションに、このソフトウェアをアンロードするのに十分な領域があることを確認します。
「SDK と Open Server のシステム稼働条件」(8 ページ) を参照してください。

ほとんどの環境変数はインストール・プログラムが自動的に設定します。それ以外の変数は、*\$\$SYBASE* にある *SYBASE.csh* または *SYBASE.sh* スクリプト・ファイルを使用してユーザが設定する必要があります。製品を使用する前にこの環境ファイルも設定する必要があります。

インストール要件を確認、検証し、インストール前の作業を完了すると、SDK と Open Server をインストールする準備ができたこととなります。

Linux on POWER (32 ビット版および 64 ビット版) のインストール前の作業手順

Open Server は、IBM XL C バージョン 10.1 を使用してコンパイルされ、リンクされています。IBM XL C コンパイラのランタイム・ライブラリをインストールしてから、Open Server をインストールしてください。Visual Age コンパイラのランタイム・ライブラリをインストールしないと、インストール・エラーになります。

このランタイム・ライブラリをインストールする前に、次のコマンドを発行して、IBM XL C ランタイム・パッケージが既にインストールされているかどうかを確認してください。

```
vacpp.rte-10.1.0-0
```

このコマンドによって “vacpp.rte-10.1.0-0” が返された場合は、IBM XL C ランタイム・パッケージが既にインストールされていることを示しているため、Open Server のインストール作業に進むことができます。

“package vacpp.rte-10.1.0-0 is not installed” というメッセージが表示された場合は、IBM Web site (<https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg24021253>) から IBM XL C version 10.1 ランタイム実行プログラムをダウンロードしてください。

パッケージをダウンロードしてインストールする手順については、Web ページの指示に従ってください。ダウンロード用の表の中から Red Hat 5.3 オペレーティング・システム用のインストール・パッケージを必ず選択します。IBM XL C version 10.1 ランタイム・ライブラリのインストールが完了してから、Open Server のインストール作業に進んでください。

Linux でのインストール前の作業手順

いくつかのユーティリティは X/Motif で構築されています。以下のパッケージがシステムにインストールされていることを確認してください。

- *openmotif-2.3.1-2.el5*
- *libXp-1.0.0-8.1.el5*
- *libXt-1.0.2-3.1.fc6*
- *libXtst-1.0.1-3.1*
- *libXmu-1.0.2-5*
- *libXext-1.0.1-2.1*
- *libSM-1.0.1-3.1*
- *libICE-1.0.1-2.1*
- *libX11-1.0.3-9.el5*

SDK と Open Server のインストール

この章では、SDK と Open Server のインストーラやコマンド・ライン・コマンドを使用してインストール、アンインストール、ダウングレードを行う方法について説明します。

トピック	ページ
SDK または Open Server インストーラの使用	15
SDK または Open Server のインストール	17
SDK または Open Server のアンインストール	24
SDK または Open Server のダウングレード	26
コマンド・ライン・オプション	27

SDK または Open Server インストーラの使用

この項では、インストーラを使用して SDK または Open Server のコンポーネントをインストールする方法を説明します。この項の手順は、次のことを前提としています。

- インストール対象のコンピュータが、「[SDK と Open Server のシステム稼働条件](#)」(8 ページ)に記載されている稼働条件を満たしている。
- 「[インストール前の作業手順](#)」(12 ページ)に示されている SDK と Open Server の作業リストを完了している。

インストール・プログラムは、必要に応じて対象ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをすべてそのディレクトリにダウンロードします。

インストール・プログラムを使用して配布メディアから Sybase コンポーネントをインストールする場合のオプションは次のとおりです。

- 1 GUI モード – SDK または Open Server のインストーラ・インタフェースを使用してコンポーネントをインストールします。
- 2 コンソール・モード – コマンド・ライン環境でコンポーネントをインストールします。

- 3 応答ファイル – 応答ファイルを記録または作成します。応答ファイルを使用すると、サイレント・モードで SDK または Open Server をインストールできます。サイレント・インストールでは、ユーザとの対話を必要とせずに製品をインストールできます。複数のマシンに同一インストールを行う場合にはこの方法が便利です。

各オプションについては、以降の項で説明します。

注意 インストール中に問題が発生した場合は、インストール・ログ・ファイルをチェックして、インストール処理の記録を確認します。このファイルは `$$SYBASE/log/<product_name>.log` にあります。`$$SYBASE` は、SDK または Open Server のインストール・ディレクトリです。

リモート・マシンへのインストール

ローカル・マシンからリモート・マシンのインストールを行うには、リモート・マシンがインストーラのウィンドウをローカル・マシンに表示するように、ローカル・マシンでパーミッションを設定する必要があります。

❖ **GUI モードでリモート・マシンが SDK または Open Server のインストーラを実行できるようにするためのパーミッションの付与**

- 1 ローカル・マシンの UNIX プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
xhost +remote_machine
```

`remote_machine` は、インストーラが実行されるマシンです。

- 2 ソフトウェアのインストール先であるリモート・マシンの `DISPLAY` 環境変数が、インストーラのウィンドウと出力を表示するローカル・マシンに設定されていることを確認します。必要な `DISPLAY` 環境変数をインストーラが検出できない場合、GUI は実行できません。

- C シェルでは、次のように入力します。

```
setenv DISPLAY host_name:0.0
```

- Bourne シェルでは、次のように入力します。

```
DISPLAY=host_name:0.0; export DISPLAY
```

`host_name` は、ローカル (表示用) マシンの名前です。

注意 リモート・インストールでは、ソフトウェアをインストールするマシン用に `rsh` を実行可能にする必要があります。実行可能にできない場合は、インストール・ホストを `.rhosts` ファイルに追加します。

SDK または Open Server のインストール

この作業の最後に、製品のインストール状態を確認できます。ただし、製品を使用するには、追加設定を行う必要もあります。「[コンポーネントの設定](#)」(32 ページ)を参照してください。

注意 isql や bcp などの SDK または Open Server バイナリは、32 ビット版製品と 64 ビット版製品で名前が同じです。Adaptive Server、SDK、Open Server の 64 ビット版製品を他の Sybase 32 ビット版製品とともに同一の Sybase インストール環境にインストールすると、32 ビット・バイナリが上書きされ、複数の製品が正常に共存できなくなることがあります。

複数の製品が同一の Sybase インストール環境で正常に共存できるようにするため、Adaptive Server 15.0.2 および SDK または Open Server 15.0 ESD #9 以降では、すべての 64 ビット UNIX プラットフォーム上の 64 ビット・バイナリが 32 ビット・バイナリで置き換えられています。

SDK または Open Server 15.7 のバージョン 15.5 ディレクトリへのインストール

SDK または Open Server 15.7 は、15.5 バージョンの置き換え用バージョンであるため、SDK または Open Server 15.7 を既存の SDK または Open Server 15.5 ディレクトリにインストールすると、15.7 のファイルによって 15.5 のファイルが上書きされます。その他のマイグレーション手順は必要ありません。

CD のマウント

SDK または Open Server の CD を CD ドライブに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。両方の製品をインストールするには、一方の製品をインストールした後、もう一方の製品の CD を使用してこの手順を繰り返します。

注意 mount コマンドのロケーションはサイトごとに異なるため、以下に示すロケーションとは異なることがあります。表示されているパスを使用して CD ドライブをマウントできない場合は、ご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照するか、システム管理者にお問い合わせください。

- HP HP-UX の場合 :

ログアウトしてから “root” 権限でログインし、次のコマンドを使用して CD をマウントします。

```
mount -F cdfs -o ro,rr /device_name /cdrom
```

次に、ログアウトし、“sybase” 権限で再びログインします。

- IBM AIX の場合 :

“sybase” としてログインし、次のように CD をマウントします。

```
/usr/sbin/mount -v cdrfs -r device_name /cdrom
```

各パラメータの説明は、次のとおりです。

- `device_name` は CD ドライブのデバイス名です。
- `/cdrom` は、CD をマウントするディレクトリの名前です。
- Solaris プラットフォームの場合 :
オペレーティング・システムによって、CD は自動的にマウントされます。“sybase” としてログインします。CD の読み込みエラーが発生した場合は、オペレーティング・システムのカーネルをチェックして、ISO 9660 オプションがオンになっていることを確認してください。Solaris では、CD ドライブのデバイス名は `/cdrom/cdromx` です。x は CD デバイスの番号です。
- Linux プラットフォームの場合
オペレーティング・システムによって、CD は自動的にマウントされます。

GUI モードでのインストール

次の手順は、GUI モードでインストールを実行する場合に必要です。

❖ GUI モードでのインストール

- 1 製品をインストールするドライブに、製品をインストールできるだけの十分な空きディスク領域があることを確認します。さらに、インストール・プログラム用に 10MB 以上の空きディスク領域があることも確認します。インストールが完了すると、インストール・プログラムはこの領域を解放します。

インストーラを実行するのに十分なテンポラリ領域がない場合は、環境変数 `IATEMPDIR` を `tmp_dir` に設定してから、インストーラを再度実行します。`tmp_dir` は、インストール・プログラムがテンポラリ・インストール・ファイルを書き込むテンポラリ・ディレクトリです。

注意 `tmp_dir` を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。

2 UNIX プロンプトで次のようにインストーラを起動します。

- IBM AIX、Linux、Solaris の場合 :

```
cd /cdrom/cdromn/pathname
./setup.bin
```

- HP HP-UX の場合 :

```
cd /cdrom/pathname
./setup.bin
```

各パラメータの意味は次のとおりです。

- `cdrom/cdromn` は、CD ドライブをマウントしたときに指定したディレクトリ (マウント・ポイント) です。たとえば Solaris では、マウント・ポイントは `cdrom/cdrom0` となる場合があります。
- `setup.bin` は、SDK および Open Server 製品をインストールする実行ファイルの名前です。

このように指定すると、コンポーネントが GUI モードでアンロードされます。

3 [開始画面] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。

4 ライセンスと著作権の契約を読みます。インストールを実行している地域を選択すると、その地域に適した契約が表示されます。[指定したインストール地域における Sybase のライセンス条件に同意します] を選択し、[次へ] をクリックします。

続行するには、ライセンスと著作権の契約に同意してください。

5 [インストール・フォルダを選択します] ウィンドウで、[次へ] をクリックしてデフォルトのインストール・ディレクトリを受け入れるか、[選択] をクリックしてディレクトリを参照し、インストールする場所を選択します。次のいずれかの動作が発生します。

- 選択したインストール・ディレクトリが存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

ディレクトリ <directory_name> は存在しません。作成しますか？

[はい] をクリックします。

- インストール・ディレクトリが存在する場合は、次のメッセージが表示されます。

Warning: 既存のディレクトリへのインストールを選択しました。このインストールを続行する場合、インストールするように選択した製品の古いバージョンがこのディレクトリで検出されると、すべて置換されます。

続行する場合で、古い製品が SDK または Open Server のインストーラでインストールされていない場合 (たとえば、15.7 より前のバージョンの Adaptive Server をインストールした場合は、インストーラは共通のファイルを上書きします。

ファイルの上書きを確認するプロンプトが表示されたら、新しいファイルのバージョンが、インストーラが上書きしようとしているファイルよりも新しい場合にかぎり、[はい] をクリックします。

6 インストールの種類を選択します。

- 通常 (デフォルト) - ほとんどのユーザに必要なと思われる SDK コンポーネントまたは Open Server コンポーネントをインストールします。この種類のインストールは、アメリカ英語の言語モジュールと、そのモジュールでサポートされる文字セットのみをインストールします。

インストールが実行される前に、インストールされるコンポーネントと必要な総ディスク領域が表示されます。これらのコンポーネントについては、「[SDK と Open Server のコンポーネント](#)」(1 ページ) を参照してください。

- フルサポートされる全言語モジュールを含むすべての SDK コンポーネントまたは Open Server コンポーネントをインストールします。

インストールが実行される前に、インストールされるコンポーネントと必要な総ディスク領域が表示されます。インストールできる言語モジュールのリストについては、「[SDK と Open Server のコンポーネント](#)」(1 ページ) を参照してください。

- カスタム — インストールする SDK コンポーネントまたは Open Server コンポーネントを選択できます。カスタム・インストールを選択すると、[インストール・セットを選択します] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、インストールするコンポーネントを選択できます。

注意 選択したコンポーネントのインストールにその他のコンポーネントが必要な場合、そのコンポーネントは自動的にインストールされます。

インストールの種類を選択したら、[次へ]をクリックします。

[インストール前の概要] ウィンドウには、インストールされるすべての製品機能またはコンポーネントと、選択したすべての機能のインストールに必要な総ディスク領域が表示されます。

- 7 正しいインストールの種類を選択し、プロセスの完了に十分なディスク領域があることを確認します。[インストール]をクリックします。

インストール・プログラムによって、すべてのコンポーネントが CD からアンロードされ、処理の進行状況が表示されます。

注意 ESD#3 のバージョン 15.7 以降、サンプル・ファイル、文書ファイル、デバッグ・ファイルのインストールの省略を選択することができます。デフォルトでは、Open Server と SDK をインストールするときに、これらのファイルがインストールされます。これらのファイルのインストールを省略するには、GUI モードの場合は `-DPRODUCTION_INSTALL=TRUE` インストーラ・コマンド・ライン引数を使用します。

コンソール・モードでのインストール

GUI なしでインストール・プログラムを実行するには、コンソール・モードでインストーラを起動します。インストーラが自動的に起動した場合は、[キャンセル]をクリックして GUI インストールをキャンセルし、端末またはコンソールからセットアップ・プログラムを起動します。

❖ コンソール・モードでのインストール

コンポーネントをコンソール・モードでインストールする手順は、`setup.bin -i console` コマンドを使用してコマンド・ラインからインストール・プログラムを実行する必要がある点と、テキストを入力してインストール・オプションを選択する点を除き、「[GUI モードでのインストール](#)」(18 ページ) で説明した手順と同じです。

- 1 コマンド・ラインで次のように入力します。

```
./setup.bin -i console
```

インストーラが起動します。

- 2 インストール作業の流れは GUI インストールの場合と同じです。ただし、表示は端末ウィンドウに出力され、応答はキーボードを使用して入力します。この後のプロンプトに従って、SDK または Open Server ソフトウェアをインストールします。

コマンド・ライン・オプションの完全なリストについては、「[コマンド・ライン・オプション](#)」(27 ページ) を参照してください。

注意 ESD#3 のバージョン 15.7 以降、サンプル・ファイル、文書ファイル、デバッグ・ファイルのインストールの省略を選択することができます。デフォルトでは、Open Server と SDK をインストールするときに、これらのファイルがインストールされます。これらのファイルのインストールを省略するには、コンソールモードの場合は `DPRODUCTION_INSTALL=TRUE` インストーラ・コマンド・ライン引数を使用します。

応答ファイルを使用したインストール

サイレント・インストール(無人インストール)を実行するには、インストーラを実行し、必要なインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

応答ファイルの作成

GUI モードまたはコンソール・モードでインストールを行うときに応答ファイルを作成するには、`-r` コマンド・ライン引数を指定します。`-r` 引数を指定することで、インストール・ウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。応答ファイルは編集可能なテキスト・ファイルであり、今後のインストールで使用する前に応答を変更できます。

コマンド・ラインで次のように入力します。

```
./setup.bin -r responseFileName
```

responseFileName は、応答ファイル用に選択したファイル名です。応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。次に例を示します。

```
/home/sybase/SDK/ResponseFile.txt
```

注意 指定したディレクトリ・パスはあらかじめ存在している必要があります。

インストールが完了すると、応答ファイルが指定のロケーションに作成されます。

サイレント・モードでのインストール

サイレント (無人) インストールではユーザによる操作は必要ありません。インストールの設定情報はすべて応答ファイルから取得されます。これは、複数の同一インストールを行う場合、またはインストール処理を完全に自動化する場合に役立ちます。

サイレント・モードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -f responseFileName -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

responseFileName は、選択したインストール・オプションを含むファイル名の絶対パスです。`-D` オプションは、Sybase ライセンス契約の内容に同意することを指定します。

GUI 画面がないことを除けば、インストーラの動作はすべて同じです。サイレント・モードのインストール結果は、GUI モードで同じ応答を行った場合とまったく同じになります。

注意 サイレント・モードでのインストール時に、Sybase ライセンス契約に同意する必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- 次のオプション `-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` をコマンド・ライン引数に含める。
 - 応答ファイルを編集して、次のプロパティを含めます。
`AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true`
-

注意 ESD#3 のバージョン 15.7 以降、サンプル・ファイル、文書ファイル、デバッグ・ファイルのインストールの省略を選択することができます。デフォルトでは、Open Server と SDK をインストールするときに、これらのファイルがインストールされます。これらのファイルのインストールを省略するには、サイレント・モードの場合は `-DPRODUCTION_INSTALL=TRUE` インストーラ・コマンド・ライン引数または応答ファイルの `PRODUCTION_INSTALL=TRUE` プロパティを使用します。

SDK または Open Server のアンインストール

SDK または Open Server のインストーラには、インストールした Sybase コンポーネントを削除する「アンインストール」機能があります。

アンインストールを実行する前に、次の問題を考慮する必要があります。

- 複数の Sybase 製品によって共有コンポーネントが同じディレクトリにインストールされている場合、その共有コンポーネントはすべての Sybase 製品をアンインストールするまで削除されません。

警告！ SDK または Open Server のインストーラ以外のインストール・プログラムを使用してインストールされた他の Sybase 製品を含むディレクトリに Open Server および SDK が存在する場合は、これらをアンインストールしないでください。アンインストールを実行すると、Sybase 製品で共有されているコンポーネントが削除され、他の製品の動作に影響を与える場合があります。

- **uninstall** 機能は、インストール CD からロードされたファイルのみ削除します。ログ・ファイルや設定ファイルなどの一部の Sybase ファイルは、管理目的で削除されずに残ります。すべての製品をディレクトリからアンインストールした場合、残っている設定ファイルが必要ないときは、そのディレクトリを手動で削除できます。

アンインストール手順

uninstall プロシージャは、GUI モードまたはコンソール・モードを使用して呼び出すことができます。

Sybase ソフトウェアをアンインストールする前に、アンインストールするソフトウェアまたはコンポーネントを使用するすべてのプロセスとアプリケーションを停止します。

❖ GUI モードでのアンインストール

1 コマンド・ラインで次のように入力します。

- SDK の場合

```
$SYBASE/sybuninstall/SDKSuite/uninstall
```

- Open Server の場合

```
$SYBASE/sybuninstall/OpenServerSuite/uninstall
```

2 [次へ] をクリックします。

[アンインストール・オプション] ウィンドウが表示されます。

3 次のいずれかを選択します。

- 完全アンインストール – SDK または Open Server のすべての機能およびコンポーネントを完全に削除します。インストール後に作成されたファイルやフォルダは影響を受けません。
- 特定の機能のアンインストール – SDK または Open Server の特定の機能をアンインストールします。

このオプションを選択すると、[製品機能を選択します] ウィンドウが表示され、アンインストールする機能を選択できます。

- 4 [次へ]をクリックします。[アンインストール完了]ウィンドウが表示され、削除できない項目が示されます。

注意 同じディレクトリに他の製品がインストールされておらず、インストーラによってインストールされたものではないファイルがそのディレクトリに含まれている場合は、そのファイルを削除するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

- 5 [完了]をクリックします。

❖ コンソール・モードでのアンインストール

- 1 `$$SYBASE` ディレクトリに移動し、コマンド・プロンプトで次のいずれかのコマンドを入力します。

- SDK の場合：

```
$$SYBASE/sybuninstall/SDKSuite/uninstall -i console
```

- Open Server の場合

```
$$SYBASE/sybuninstall/OpenServerSuite/uninstall -i console
```

`uninstall` プログラムが起動します。

- 2 アンインストール・プログラムの流れは通常の GUI アンインストールの場合とまったく同じです。ただし、表示は端末ウィンドウに出力され、応答はキーボードを使用して入力します。この後のプロンプトに従って、**Software Developer's Kit** または **Open Server** ソフトウェアをアンインストールします。

コマンド・ライン・オプションの完全なリストについては、「[コマンド・ライン・オプション](#)」(27 ページ)を参照してください。

SDK または Open Server のダウングレード

SDK または Open Server 15.7 を前のバージョンにダウングレードするには、次の手順に従います。

- 1 バージョン 15.7 をアンインストールします。既存のバージョン 15.7 のディレクトリに前のバージョンのソフトウェアをインストールすることはできません。

- 2 前のバージョンのソフトウェアをインストールします。前のバージョンのソフトウェアには ESD が含まれていないため、別途インストールする必要があります。

コマンド・ライン・オプション

表 2-1 に、インストーラまたはアンインストーラの実行時に使用できるコマンド・ライン・オプションを示します。

表 2-1: コマンド・ライン・オプション

オプション	目的
-i console	コンソール・インタフェース・モードを使用する。このモードでは、インストール中のメッセージは Java コンソールに表示され、ウィザードはコンソール・モードで実行される。
-D	カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストール・ディレクトリを上書きするには、次のように入力する。 <code><install_launcher_name></code> <code>-DUSER_INSTALL_DIR=E:¥Sybase</code>
-i silent	製品をサイレント・モードでインストールまたはアンインストールする。インストール／アンインストールはユーザとの対話なしで、「サイレント」に実行される。
-i swing	GUI モードを使用する。
-r	応答ファイルと参照を生成する。
-f	応答ファイルを参照する。
-l	インストーラのロケールを設定する。
-h?	インストーラのヘルプを表示する。

この章では、インストール後に行う必要のある作業について説明します。

トピック	ページ
環境変数の設定	29
サンプル・スクリプトの実行	30
コンポーネントの設定	32
jConnect for JDBC のインストール後の作業	33

環境変数の設定

インストール・プログラムは、アンロード処理の一環として、PATH などの必要な環境変数のほとんどを自動的に設定します。`.sh` ファイルと `.csh` ファイルもアンロードします。これらのファイルには、Open Client/Open Server コンポーネントを正常に設定、実行するために手動で設定する必要のある環境変数が含まれます。

Bourne シェル・ファイル
と C シェル・ファイル

インストーラは、次のロケーションに、環境変数を含む Bourne シェル・ファイルと C シェル・ファイルをアンロードします。

- `$SYBASE/SYBASE.sh`
- `$SYBASE/SYBASE.csh`

環境変数を設定するには、次のいずれかの手順に従います。

- シェル・ファイルの環境変数の値を使用して、コンポーネントの RUN 環境を変更する。
- コンポーネントを呼び出す前に、以下の説明に従ってコンポーネントの RUN 環境を即時に更新する。

❖ **RUN 環境の即時更新**

- 1 Bourne シェルの場合、次のように入力します。

```
cd $SYBASE
. SYBASE.sh
```

- 2 C シェルの場合、次のように入力します。

```
cd $SYBASE
source SYBASE.csh
```

サンプル・スクリプトの実行

インストール後、以下のサンプル・スクリプトを実行します。

❖ **Adaptive Server Enterprise (拡張モジュール Python 版)**

- 1 `$SYBASE/$SYBASE_OCS/samples/python` ディレクトリにある Python のサンプルを特定します。
- 2 Adaptive Server が起動し、動作していることを確認します。
- 3 PYTHONPATH 環境変数または Python 変数 `sys.path` が次のディレクトリ・パス (各バージョンの Adaptive Server Python 拡張モジュールがインストールされるデフォルト・ディレクトリ) のいずれか 1 つに設定されていることを確認します。

表 3-1: PYTHONPATH の設定

Python のバージョン	デフォルト・インストール・パス
2.6, 2.7	<code>\$SYBASE/\$SYBASE_OCS/python/python26_64r/lib</code>
3.1	<code>\$SYBASE/\$SYBASE_OCS/python/python31_64r/lib</code>

- 4 サンプルを実行します。

```
python test.py
```

詳細については、『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

❖ **PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール**

- 1 `$SYBASE/$SYBASE_OCS/samples/php` ディレクトリにある PHP のサンプルを特定します。
- 2 Adaptive Server が起動し、動作していることを確認します。

- 3 サンプル `php.ini` ファイルを、次を使用して生成します。

`$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/config` ディレクトリの
`$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/config/generate_php_ini.sh` ファイル

- 4 以下の環境変数が設定されていることを確認します。

- `SYBASE`
- `SYBASE_OCS`
- `LD_LIBRARY_PATH` — `$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/lib` ディレクトリを指定します。

- 5 サンプルを実行します。

```
php -c $$SYBASE/$$SYBASE_OCS/config firstapp.php
```

または以下を実行して、ロードされた拡張機能のリストを取得します。

```
php -c $$SYBASE/$$SYBASE_OCS/config -m
```

詳細については、『*PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド*』を参照してください。

❖ Perl 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ

- 1 `$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/samples/perl` ディレクトリにある Perl のサンプルを特定します。
- 2 Adaptive Server が起動し、動作していることを確認します。
- 3 `PERL5LIB` 環境変数が以下のように設定されていることを確認します。
 - Linux x86-64 64 ビット版ドライバの場合は、
`$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/perl/sybaseperl_64r/lib/lib:¥`
`$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/perl/sybaseperl_64r/lib/arch` ディレクトリを指定します。
 - Solaris x86 32 ビット版および Solaris SPARC 32 ビット版ドライバの場合は、
`$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/perl/sybaseperl_32/lib/lib:¥`
`$$SYBASE/$$SYBASE_OCS/perl/sybaseperl_32/lib/arch` ディレクトリを指定します。

- IBM AIX 32 ビット版、HP-UX Itanium 32 ビット版、および Linux on POWER 32 ビット版ドライバの場合は、
`$$SYBASE/$SYBASE_OCS/perl/sybaseperl_32r/lib/lib.¥`
`$$SYBASE/$SYBASE_OCS/perl/sybaseperl_32r/lib/arch` ディレクトリを指定します。

4 サンプルを実行します。

```
perl firstapp.pl
```

詳細については、『*PERL 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド*』を参照してください。

コンポーネントの設定

『Open Client/Server 設定ガイド UNIX 版』の指示に従って、Open Client/Open Server の各コンポーネントを設定します。

Python 用 Adaptive Server 拡張モジュールの設定と使用については、『Python 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

PHP 用 Adaptive Server 拡張モジュールの設定と使用については、『PHP 用 Adaptive Server Enterprise 拡張モジュール・プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

Perl 用 Adaptive Server データベース・ドライバの設定と使用については、『*PERL 用 Adaptive Server Enterprise データベース・ドライバ・プログラマーズ・ガイド*』を参照してください。

jConnect for JDBC 7.07 については、[「jConnect for JDBC のインストール後の作業」](#)を参照してください。

interfaces ファイル・エントリの修正

コマンド・ライン・ユーティリティ `dscp` または X-Windows グラフィカル・ツール `dsedit` を使用して、`interfaces` ファイルと、使用中のディレクトリ・サービスのサーバ・エントリ `master` と `query` を変更します。`dscp` または `dsedit` の詳細については、『*Open Client/Server 設定ガイド UNIX 版*』を参照してください。

jConnect for JDBC のインストール後の作業

jConnect for JDBC 7.07 には、次のインストール後の作業があります。

JDBC_HOME の設定

JDBC_HOME は、jConnect インストール・ディレクトリを示します。次に例を示します。

インストール・ディレクトリが `/opt/sybase` の場合は、JDBC_HOME を次のように設定します。

```
/opt/sybase/jConnect-7_0
```

CLASSPATH の設定

CLASSPATH は jConnect ランタイム・クラスおよび Java 6 以降の `jar` ファイルのロケーションです。この項では、使用している Java と jConnect のバージョンに応じた CLASSPATH の設定について説明します。

Java 6 以降での
jConnect 7.07 の使用

jConnect 7.07 を Java 6 以降で使用するには、CLASSPATH 環境変数に次のパスを追加します。

```
$JDBC_HOME/classes/jconn4.jar
```

サンプルまたは TDS
トンネリング・サーブ
レットの実行

サンプルまたは TDS トンネリング・サーブレットを実行するには、CLASSPATH 環境変数に次を追加します。

```
$JDBC_HOME/classes/jconn4.jar:$JDBC_HOME/classes
```

注意 Java 6 以降が実行されている環境で jConnect 7.07 を使用してください。

さらに、定義済みのアプリケーション・クラスのロケーションも CLASSPATH に指定してください。

Firefox の使用による
CLASSPATH の制限

Firefox を使用する場合、CLASSPATH 環境変数の設定方法にいくつかの制限が適用されます。

Java 仮想マシンのセキュリティ・マネージャでは、サーバがローカル・システムで動作する場合でも、ローカル・ファイル・システムにインストールされた jConnect はサーバへの接続を作成できません。これは、jConnect を使用するアプレットの実行に Firefox を使用する場合に問題になります。

jConnect をロードしてサーバへの接続を作成する必要がある場合、Firefox は jConnect クラスを検出するために、環境に定義されている CLASSPATH を探します。ローカル jConnect インストール・ディレクトリを示すように定義した CLASSPATH が検出されると、サーバからではなくローカル・ファイル・システムから直接 jConnect をロードして、接続を作成しようとします。このため、セキュリティ・エラーが発生して接続が失敗します。

Firefox を使用して jConnect アプレットを実行する場合は、CLASSPATH をローカルの jConnect ディレクトリに設定しないでください。

ストアド・プロシージャのインストール

jConnect を正しく機能させるには、アプリケーションの接続先の Adaptive Server Enterprise または Adaptive Server® Anywhere のデータベースにストアド・プロシージャとテーブルをインストールする必要があります。jConnect には、必要なストアド・プロシージャとテーブルをインストールする次のスクリプトが用意されています。

- *sql_server.sql* – Adaptive Server 12.0 よりも前のバージョンにストアド・プロシージャをインストールします。
- *ssql_server12.sql* – Adaptive Server 12.0.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_server12.5.sql* – Adaptive Server 12.5.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_server15.0.sql* – Adaptive Server 15.0.x から 15.5.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_server15.7.sql* – Adaptive Server 15.7 以降にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_asa.sql* – SQL Anywhere® 9.x にストアド・プロシージャをインストールします。
- *sql_asa10.sql* – SQL Anywhere 10.x にストアド・プロシージャをインストールします。

- `sql_asa11.sql` – SQL Anywhere 11.x にストアド・プロシージャをインストールします。

注意 Adaptive Server 12.5.3 以降または Adaptive Server Anywhere 9.0.2 以降を使用している場合、これらのスクリプトはすでにサーバにインストールされた状態になっています。これらのスクリプトのインストールが必要になるのは、Adaptive Server に同梱されているドライバよりも新しいバージョンのドライバを所有している場合のみです。また、下位互換性を維持するために、`sql_server.sql` および `sql_server12.sql` はそれぞれ Adaptive Server 11.9.2 および 12.0 に含まれています (これらのバージョンは現在はサポートされていません)。

❖ ストアド・プロシージャ・インストール・スクリプトの実行

- 1 JAVA_HOME、JDBC_HOME、CLASSPATH の各環境変数が設定されていることを確認します。
- 2 IsqlApp サンプル・アプリケーションを使用します。IsqlApp の詳細については、「[Adaptive Server データベースへのストアド・プロシージャのインストール](#)」を参照してください。

❖ Adaptive Server データベースへのストアド・プロシージャのインストール

- `$JDBC_HOME/classes` ディレクトリに移動し、次のように入力します。
 - Adaptive Server version 15.x の場合：

```
java IsqlApp -U sa -P password -S jdbc:sybase:
Tds:[hostname]:[port] -I $JDBC_HOME/sp/sql_server15.0.sql -c go
```

- Adaptive Server version 12.5.x の場合：

```
java IsqlApp -U sa -P password -S jdbc:sybase:
Tds:[hostname]:[port] -I $JDBC_HOME/sp/sql_server12.5.sql -c go
```

❖ SQL Anywhere または Adaptive Server Anywhere データベースへのストアド・プロシージャのインストール

- `$JDBC_HOME/classes` ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
java IsqlApp -U dba -P password -S jdbc:sybase:
Tds:[hostname]:[port] -I $JDBC_HOME/sp/sql_asa.sql -c go
```

インストール内容の確認

jConnect のインストールが完了したら、この項に示す内容を確認してください。

パッケージ

jConnect バージョン 7.07 では、次のパッケージが、*jconn4.jar* ファイル (リリース・ビルドの場合) および *jconn4d.jar* ファイル (デバッグ・ビルドの場合) に含まれています。

- com.sybase.jdbc4.jdbc
- com.sybase.jdbc4.tds
- com.sybase.jdbc4.timedio
- com.sybase.jdbc4.utils
- com.sybase.jdbcx

jConnect ドライバ com.sybase.jdbc4.jdbc.SybDriver は com.sybase.jdbc4.jdbc パッケージに含まれています。

ディレクトリとファイル

表 3-2 に、*jconnect7_0* ディレクトリの内容を示します。

表 3-2: *jconnect7_0* ディレクトリ内のディレクトリとファイル

名前	タイプ	説明
<i>classes</i>	サブディレクトリ	次の jConnect 7.0 コンポーネントを含む。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>jconn4.jar</i> ファイル。jConnect 7.0 のクラスを含む。 • <i>sample2</i> サブディレクトリ。jConnect 7.0 のサンプル・アプレットとサンプル・アプリケーション用のクラス・ファイルを含む。 • <i>gateway2</i> サブディレクトリ。TDS トンネリング・サーブレットのコンパイルで使用される。
<i>devclasses</i>	サブディレクトリ	<i>jconn4.jar</i> と同じ jConnect 7.0 コンポーネントを含む <i>jconn4d.jar</i> ファイルを含む。ただし、デバッグ・モードがオンになる。

名前	タイプ	説明
<i>docs</i>	サブディレクトリ	次のものを含む。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>en</i> サブディレクトリ - 英語版 javadoc マニュアルを含む • <i>en/progref</i> サブディレクトリ - HTML 形式と PDF 形式の『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を含む • <i>en/installdocs</i> サブディレクトリ - HTML 形式と PDF 形式の『jConnect for JDBC インストール・ガイド』を含む
<i>gateway2</i>	サブディレクトリ	TDS トンネリング・サーブレットのソース・コードを含む。
<i>sample2</i>	サブディレクトリ	サンプル Java アプリケーションのソース・コードを含む。
<i>sp</i>	サブディレクトリ	関数のエスケープ用のストアド・プロシージャと DatabaseMetaData メソッドをデータベース・サーバにインストールする次の isql スクリプトを含む。使用できるスクリプトのリストについては、「ストアド・プロシージャのインストール」(34 ページ)を参照してください。
<i>tools</i>	サブディレクトリ	UNIX または Linux で <i>interfaces</i> ファイルを人間が判読できるフォーマットに解析するための perl スクリプト (<i>decode-ili</i>) を含む。
<i>netimpct.gif</i>	グラフィック・ファイル	jConnect のグラフィックを含む。
<i>index.html</i>	HTML ファイル	jConnect マニュアルと jConnect サンプルへのリンクを含む。

JDBC のサンプルと仕様

JDBC のサンプルと仕様については、『jConnect for JDBC プログラマーズ・リファレンス』を参照してください。

jConnect インストール環境のテスト

jConnect をインストールしたら、Version プログラムを実行してインストール環境をテストします。

注意 Version プログラムは、Sybase がインターネット上で提供しているデモ用データベースに接続します。Version プログラムを正しく実行するには、インターネットにアクセスできる環境が必要です。または、プログラム実行時に [-U *username*] [-P *password*] [-S *servername*] コマンドで、使用するデータベースを明示的に指定してください。

❖ インストール環境のテスト

- 1 UNIX プロンプトまたは Linux プロンプトで、*JDBC_HOME* ディレクトリに変更します。
- 2 サンプル・プログラムを実行できるように *CLASSPATH* 変数が設定されていることを確認し (詳細については、「[CLASSPATH の設定](#)」(33 ページ) を参照)、次のテキストを入力します。

```
java sample2.SybSample Version
```

SybSample ウィンドウが表示されます。プログラムの実行に応じて、ウィンドウの上部の [Running Sybase Sample] テキスト・ボックスに *Version* のソース・コードが表示されます。真ん中のテキスト・ボックス ([Sample Output]) にはバージョン情報が表示されません。次に例を示します。

```
Using JDBC driver version 7.0  
jConnect (TM) for JDBC(TM)/7.0...
```

- 3 出力は、次のいずれかになります。
 - 上記のメッセージが [Sample Output] テキスト・ボックスに表示された場合は、jConnect が正しくインストールされています。
 - 上記のメッセージは表示されたが [Running Sybase Sample] テキスト・ボックスに *Version* のソース・コードが表示されず、ウィンドウの下部の [Status] テキスト・ボックスに次のメッセージが表示される場合、jConnect は正しくインストールされていますが、*Version* プログラムを実行するコマンドを *JDBC_HOME* 内の *sample2* ディレクトリ以外のロケーションから入力した可能性があります。

```
java.io.FileNotFoundException:Version.java
```

- SybSample ウィンドウが表示されず、次のエラー・メッセージが表示される場合、*CLASSPATH* が正しく設定されているかどうかを確認してください。

```
クラス sample2.SybSample が見つかりません
```

- SybSample ウィンドウが表示されず、次のいずれかのエラー・メッセージが表示される場合、パスに *JDK* ホーム・ディレクトリの *bin* サブディレクトリが指定されていることを確認してください。

“指定した名前は内部または外部コマンドとして認識されません”

“コマンドまたはファイル名が正しくありません”

- 4 インストールが正しく行われたことを確認したら、[Close] をクリックして SybSample ウィンドウを閉じます。

jConnect バージョンの確認

`$JDBC_HOME/classes` ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
java -jar jconn4.jar
```

次のようなバージョン文字列が表示されます。

```
jConnect (TM) for JDBC(TM)/7.07 GA(Build  
26666)/P/EBF19485/JDK 1.6.0/jdbcmain/Wed Aug 31  
03:14:04 PDT 2011
```

この場合、バージョンは 7.07 です。文字列 "EBF" の後に続く 5 桁の数字は、jConnect の正確なバージョンを示します。この数字は、新しくリリースされた EBF ほど大きくなります。

Sybase ダウンロード Web サイトで jConnect のバージョンの更新を定期的に確認し、最新バージョンをダウンロードすることをおすすめします。

この項では、jConnect インストールの正確なビルド・バージョンを確認する方法について説明します。

jConnect のアップグレード

詳細については、『*jConnect for JDBC* プログラマーズ・リファレンス』の「jConnect アプリケーションへのマイグレート」を参照してください。

索引

A

Adaptive Server Anywhere
メタデータ用のストアド・プロシージャのインストール 35

B

Bourne シェル 16
RUN 環境の更新 30

C

CLASSPATH 環境変数 33
Firefox での制限事項 33

D

DatabaseMetaData メソッド
ストアド・プロシージャ 34
DISPLAY 環境変数 16
ユーティリティ
dscp 32
dscp ユーティリティ
interface ファイル・エントリの修正 32
ユーティリティ
dsedit 32
dsedit ユーティリティ
interface ファイル・エントリの修正 32

F

Firefox
CLASSPATH の制限 33

G

GUI インストール・モード 15, 17
ユーティリティ
gzip 10

I

interface ファイル・エントリの修正
dscp 32
dsedit 32

J

jConnect
インストール内容 36
jConnect のインストール
インストール環境のテスト 37
jConnect バージョンの確認 39
JDBC 2.0 のサンプル 37
JDBC_HOME 環境変数 33

L

LD_LIBRARY_PATH 環境変数 31

O

Open Server
環境変数 29

索引

P

- PERL5LIB 環境変数 31
- PYTHONPATH 環境変数 30

R

- rsh
 - リモート・インストール 16
- C シェル
 - RUN 環境の更新 30
- RUN 環境の更新
 - C シェル 30
 - Bourne シェル 30

S

- SDK
 - 環境変数 29
- Open Client
 - SDK のコンポーネント 6
- Software Developer's Kit (SDK)
 - Open Client コンポーネント 6
 - 言語モジュール・コンポーネント 2
 - サンプル・プログラム 6
 - ドライバ 6
- SQL Anywhere
 - メタデータ用のストアド・プロシ
ージャのインストール 35
- Sybase アカウント
 - 作成 12
- SYBASE 環境変数 31
- SYBASE_OCS 環境変数 31

V

- version プログラム
 - 正常に終了した jConnect
 - インストール環境のテスト 37

あ

- アンインストール
 - GUI モード 25
 - コンソール・モード 26

い

- インストール
 - log.txt* 16
 - GUI モード 15, 17, 18
 - 応答ファイル 23
 - 応答ファイル・モード 16
 - コンソール・モード 15, 21
 - ストアド・プロシージャ 34
 - 説明 15
 - 内容 36
 - リモート 16
- インストール後の作業 29
 - 環境変数の設定 29
- インストールの *log.txt* 16
- インストールの種類
 - カスタム 20
 - 標準 20
 - フル 20

う

- 上書き
 - 重複コンポーネントの警告 20

お

- 応答ファイル・インストール・モード 23

か

環境変数

- DISPLAY 16
- LD_LIBRARY_PATH 31
- PERL5LIB 31
- PYTHONPATH 30
- SYBASE 31
- SYBASE_OCS 31

環境変数の設定

- Open Server 29
- SDK 29

環境変数、設定

- CLASSPATH 33
- JDBC_HOME 33

関連マニュアル v

け

警告

- 重複コンポーネントの上書き 20

言語モジュール

- SDK コンポーネント 2
- サイズ 11

こ

- コマンド・ライン・オプション 27
- コンソール・インストール・モード 15, 21

さ

サイズ

- 言語モジュール 11

サンプル

- JDBC 2.0 37

サンプル・プログラム

- SDK コンポーネント 6

し

条件

- ハードウェアとソフトウェア 8

す

スクリプト

- SDK コンポーネント 6

スクリプト言語

- Perl 用データベース・ドライバ 4, 31
- PHP 4
- Python 4, 30
- サンプル 30

ストアド・プロシージャ

- SQL Anywhere または
Adaptive Server Anywhere 35
- メタデータに必要 34

せ

- 製品のコンポーネント 6
- 製品のコンポーネントの概要 6

た

対象読者 v

- ダウングレード
- SDK または Open Server 26

て

テスト

- jConnect バージョン 38
- 正常に終了した jConnect
インストール環境 37

索引

と

- ドライバ
 - SDK コンポーネント 6
- トラブルシューティング
 - log.txt* 16

は

- ハードウェアおよびソフトウェアの稼働条件 8

ふ

- ブラウザ
 - Firefox での CLASSPATH の制限事項 33
- プラットフォーム
 - mount コマンド 17
- プラットフォームごとに異なる mount コマンドのロケーション 17
 - HP-UX 18
 - IBM 18
 - Linux 18
 - Solaris 18

め

- Adaptive Server Enterprise
 - メタデータ用のストアド・プロシージャのインストール 35
- メタデータ、ストアド・プロシージャ 34

り

- リモート・インストール 16